



仕事を楽しむためのWEBマガジン

経営者インタビュー

EXECUTIVE INTERVIEW



信頼関係を大事にする オフィスづくりのプロ

株式会社エムエス商会

代表取締役 藁粥洋

プロフィール（わらかゆ ひろし）埼玉県出身。学業修了後、大手電機メーカーの販売パートナーとして、営業や販売、イベント運営に携わる。その後、父が経営する（株）エムエス商会に転職し、父の跡を継いで代表取締役に就任した。先代から行なっていた事務機器の販売およびオフィス機器の設置工事・保守点検を含むトータルコーディネートを中心に、前職の経験を活かした家電販売や、冷凍食品の配送など、さまざまな事業を展開している。

埼玉県さいたま市で事務機器や家電の販売、オフィスのトータルコーディネートを手がける株式会社エムエス商会。代表取締役の藁粥洋氏は、人とのつながりを何より大切にする柔軟で行動力あふれる経営者だ。創業から四半世紀を迎える父の会社を受け継ぎ、顧客の困りごとには迅速に、何でも応えたいのだという。今後は町の電気店としても地域に貢献していきたいと語る藁粥社長に、仕事にかける思いを聞いた。

オフィスの総合サポートで地域社会に貢献

水野 埼玉県さいたま市でオフィスのトータルサポートを手がける株式会社エムエス商会さん。オフィス機器のパフレットがずらっと並んでいますね。かなり種類があります！ どういったお仕事が中心なのでしょう？

藁粥 事務機器の販売を中心に、周辺地域で営業する企業様のオフィスづくりを総合的にサポートしています。複合機やビジネスホンといったオフィス機器から、デスクやキャビネット、パーテーションなどの空間づくりやレイアウト、エアコンなどの空調設備まで、オフィスに必要なありとあらゆるものを取り扱っておりまして。さらには機器の設置やメンテナンス、オフィスの移転に伴う作業にも対応可能で、配線・配管工事や電気工事も行っています。



インタビューアー 水野裕子（タレント）

水野 非常に幅広いですね！ オフィス機器や備品の販売だけでなく、セッティングや施工など幅広く対応しているわけですか。

藁粥 そうですね。最近では大手家電量販店のエディオンさんと提携し、家電製品の仕入れも始めまして。これによって取り扱う商品のラインナップが広がり、より手厚いサポートができるようになりました。

水野 御社は2000年頃に創業してから、間もなく25年を迎えるとお聞きました。長きにわたる実績を重ねながら、現在も事業の幅を広げ進化を続けているんですね。

藁粥 ありがとうございます。弊社は私の父が創業した会社でして。実は私が事業を受け継いだのは、急きょ父が病に倒れてしまったことがきっかけだったんです。

二代目として経営者の道を歩む覚悟を決める

水野 お父様のご不幸がきっかけだったとは… ご苦労されての今なのですね。藁粥社長は、もともとお父様が経営されていたエムエス商会さんでお仕事をされていたんですか？

藁粥 別会社に勤めていまして。この会社に入る以前は、大手電機メーカーのシャープさんの販売パートナーとして、家電製品の営業や販売、イベントの企画運営などに携わっていました。そこではBtoBおよびBtoCの両方の営業経験を積み、社内外のさまざまな方と関わる中で、商品を売るだけでなく人と人との信頼関係を築くことがいかに大切かを学んだんです。その経験は、今の仕事にも生きていますね。その後、先ほどお話しした通り、父が倒れたのをきっかけに、父の仕事を手伝えるためにこの会社に入ったんです。



水野 ということは、藁粥社長が現在のお仕事をされるのも、予想外の出来事だったんですね。ちなみに、お父様の会社を継ぐ予定はあったんですか？

藁粥 全然ありませんでした（笑）。

水野 えっ！？ 即答ですね（笑）。まったくなかったとは驚きです！

藁粥 父は仕事へのプライドが高く、私に会社を継がせるつもりはなく、私自身も反発し繋ぐ気はありませんでした。そのため、父は会社をたたむつもりで準備を進めていたんです。しかし、父が倒れたことでこの会社の仕事を手伝うようになってから、気持ちが大きく変わりました。

水野 大きな心境の変化があった、と。お父様からの熱い説得があったのでしょうか？

藁粥 それは相変わらずなかったです（笑）。でも、この会社を頼りにしてくださっていたお客様に対して申し訳ないと強く感じましてね。地域の方々の、父への信頼が厚いんですよ。それを目の当たりにしたとき、長年この地域に根差してお客様からの信頼を積み重ねてきたこの会社を、終わらせるのはもったいないと思ったんです。

水野 なるほど。普段の父親の姿と、家では見せない経営者としての姿の違いですね。私の父も自営業で建築関係の職人なのでわかります。いよいよ本気でお父様から会社を受け継ぐ覚悟を決めたわけですか。

藁粥 ええ。とはいえ、会社を継いでからは本当に大変で、猛勉強の日々でした。父は倒れてから体が弱っていたこともあり、会社経営について多くのことを教えてもらうのが難しかったんです。

水野 もともと家電製品を取り扱うお仕事をしていたとはいえ、エムエス商会さんで取り扱うオフィス機器と家電とでは、異なる専門知識が必要だったのではないのでしょうか。



藁粥 おっしゃる通りです。そこで、オフィス機器メーカーの担当者さんをお願いして勉強会を開いてもらったり、取引先の企業様に足を運んで相談したりと、現場で少しずつ知識やノウハウを蓄えていきました。そうした中で、多くのお取引先やメーカーの方々が親身にサポートしてくれまして。本当にありがたかったです。父が営業一筋でお客様を大切にしてきたからこそ、いざという時に皆様が手を差し伸べてくれたんだと感じます。

水野 多くの方々がエムエス商会さんのためにと動いてくださったとは。普段のお父様の人柄が見て取れる、素敵なエピソードですね！



地域の人々の生活に寄り添うユニークな事業



水野 お父様の会社の伝統も守りながら、新たに一般の方々に向けたユニークな事業も始められたそうですね。

藁粥 2025年の2月より、豊洲市場から仕入れる新鮮な魚介類などを中心に、冷凍食品の宅配事業を開始しました。取り扱う商品は、最初は私の好きなものからスタートしようと思ひまして（笑）。オリーブオイルやピザ、それにホタテなどを取り扱うこと

に決めました。特にホタテが一番人気なんです。

水野 ホタテ！ ぜひ私も買いたい（笑）。さまざまな食材がある中でも、ホタテって特別感がありますよね！

藁粥 ありがとうございます（笑）。このサービスでは、ホタテのむき身を1kg単位でお届けしていただいて。お客様から「こんなの欲しかった！」と言っただけだと嬉しいですね。

水野 それにしても、なぜこのような冷凍食品の宅配を始めようと思ったんですか？

藁粥 地域のお客様のために「何かお役に立てることができないか」と考えたのがきっかけです。この辺りの地域では、商店街や店舗が立ち並び大きな駅から少し外れると、商業施設や小売店なども少なくなります。体調面などのさまざまな事情から、遠くまで出かけることができないご高齢者も多くいますし、「買い物に行きたいけどどうすれば良いかわからない」、「誰に相談すれば良いかわからない」という声も多いんです。そのような方々のために宅配サービスを開始しようと思ひ至りました。この食品の宅配をきっかけに、一般のお客様にもエムエス商会を知っていただき、家電製品に関する困りごとにも対応していけたらと考えています。地域の“お助けサービス”として頼りにしてもらえるようにしていきたいです。



水野 食品にしても家電製品にしても、近所に相談できるお店がないと困ってしまいますよね。特に猛暑が続く夏場では、エアコンの設置や修理はまさに死活問題ですから。まずはエムエス商会さんという会社が近くにあると、地域の方々に知ってもらうことが大切ではないかと思います。

人と向き合う姿勢と、父の教えを胸に

水野 お話を聞いていると、ただ商品を販売すること以上に、地域の方々の暮らしを支えたいという藁粥社長の強い思いを感じます。

藁粥 実は、若い頃に父から教わった「自分自身の幸せだけではなく、相手の幸せも考えて営業をしろ」という言葉が心に残ってまして。この歳になって深く共感できるようになり、今の私にとってさまざまなことを判断する基準になっています。私自身がこの地域社会に貢献できることはなんだろうと考えた結果が、先ほどもお話ししたようにこのエムエス商会を継続させ、地域の方々のお役に立てる、地域になくてはならない社会にすることだったんです。



水野 もはや使命感ですね！ 人や地域を大切に思う気持ちが、お客さんからの厚い信頼につながっているのだと思います。まさにお父様の言葉の通りだと思います。

藁粥 ありがとうございます。父の言葉も相まって、私はお客様からのご依頼やご相談があると、「すぐお客様のもとに行きたい！ ご要望に応えたい！」と思うんですよ。お客様に喜んでいただくことで、私自身も幸せになれるのが、父の言葉の真意だと思っています。

水野 素敵なお考えです。そのような藁粥社長の行動力の高さや、フットワークの軽さの原点も気になります。



藁粥 新しく出会う人とつながること自体が楽しみなのと、もともと運動部で鍛えていたことも大きな理由ですね。学生時代は、野球にバスケット、さまざまなスポーツをしていて、体もかなり絞っていました。その頃、実は水野さんも出演していらっしゃるスポーツ番組「SASUKE」に出場したいと思っていたんですよ（笑）。

水野 そうなんですか！ 「世界の車窓から」のナレーションとしておなじみの石丸謙二郎さんも、48歳の時に初めてSASUKEに出場されましたから、今からでも遅くないですよ！

藁粥 それは心強いですね（笑）。それならば、私もスタッフたちと一緒にトレーニングして、またSASUKEの会場でレジェンドである水野さんに再会できるよう頑張ります！

水野 挑戦お待ちしております（笑）。「相手の幸せを考える」というお父様の教えを胸に、人と人とのつながりを大切にされている藁粥社長の姿には心から感動しました。これからもそのフットワークの軽さと誠実さで、頼れる地域の電気店になっていってくださいね。SASUKEへの挑戦も含めて、応援しています！

「仕事を楽しむ」とは・・・

人と人とのつながりを築くことですね。仕事を通じて多くの人と出会い、信頼関係をつくりあげていくのが、私にとっての大きな楽しみなんです。

（藁粥洋）